

参考となる成果

# 相双地区トラフグはえ縄における漁獲個体数の制限

福島県水産資源研究所 資源増殖部

## 1 部門名

水産業—資源管理—延縄

## 2 担当者名

平川直人

## 3 要旨

相双地区におけるトラフグはえ縄漁では、漁獲が集中することによる単価の下落を回避するため、漁業者の自主規制として2023年漁期から1日に1隻が漁獲できるトラフグ漁獲個体数を制限した。この結果、漁期中のCPUE(1日1隻当たりの平均漁獲重量)は、2021-2022年漁期は、漁期の初めに高くその後、低下していたが、2023年漁期はCPUEに大きな変動はなく、漁期を通じて安定して漁獲が行われた(図1)。一方、2023年漁期の単価(千円/kg)はそれ以前と比較し、上昇した(図2)。これらのことから、2023年漁期に実施した漁獲個体数の制限は安定した漁獲と単価の下落回避に対して有効に機能したものと考えられた。

- (1) 2021-2023年漁期において、操業日毎の相双地区はえ縄トラフグ漁獲量を操業隻数で除し、1日1隻当たりの漁獲重量(CPUE)を算出した。
- (2) 2023年漁期相双地区トラフグはえ縄1日1隻当たりの漁獲可能個体数は、乗組員数に応じて変化し、n人乗り漁船で、 $20+5n$ 尾( $n \leq 4$ )であった。

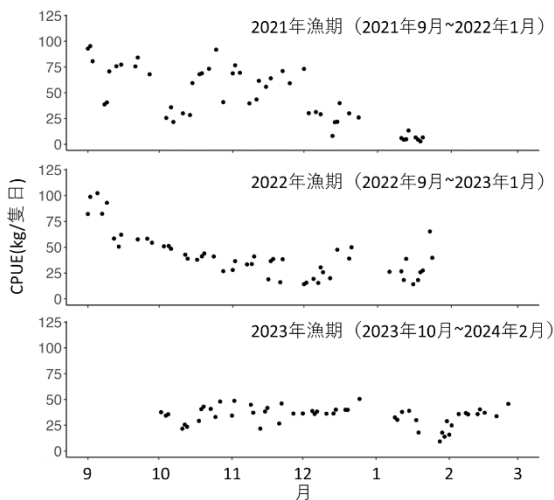


図1 2021～2023年漁期における相双地区トラフグはえ縄 CPUE(1日1隻ごとの平均漁獲量)の推移

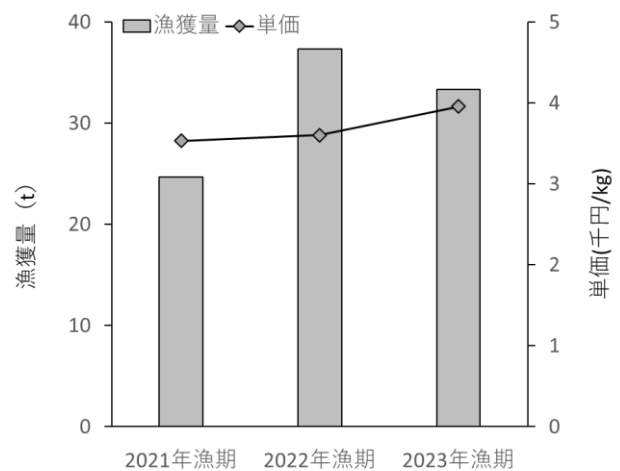


図2 2021～2023年漁期における相双地区はえ縄によって漁獲されたトラフグの漁獲量と単価(千円/kg)

## 4 成果を得た課題名

- (1) 研究期間 令和3～令和7年度
- (2) 研究課題名 沿岸性底魚類の生態と資源動向の解明

## 5 主な参考文献・資料

なし